オーストラリア　　派遣期間　2014年４月～2017年３月

メルボルン日本人学校　実践報告

岩見沢立中央小学校
教　諭　　高砂　俊克

１　オーストラリア・メルボルン国について

オーストラリアは人口約２千２百万人で、土地面積は日本の約２０倍、世界で６番目に大きな国である。オーストラリア連邦は、国旗の星の数と同様に６つの州、クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州、サウスオーストラリア州、ウェスタン・オーストラリア州、タスマニア州とキャンベラ首都特別地域と、ノーザンテリトリー準州の２つの特別州からなる。

歴史を見ると、先住民族アボリジニが約６万年前から居住していたと言われる。その後、１８世紀頃にキャプテン・クックが東海岸に上陸しイギリス領とした。１９世紀中頃のゴールドラッシュを機にヨーロッパだけではなく、世界各国より移民が入植し、現在では他民族・多文化国家を形成し発展を続けている。

世界最大の珊瑚礁地帯のグレートバリアリーフや、世界で２番目に大きな一枚岩、エアーズロックなど様々な世界遺産や国立公園が存在し、カンガルーやコアラなどの有袋類など独自の進化を遂げた動物も有名であり、素晴らしい自然に囲まれた国でもある。

オーストラリア大陸の南東部に位置するビクトリア州の州都メルボルンは、シドニーに次いでオーストラリア第２の都市である。１８５３年に入植が開始され、近郊都市のバララトなど各地での金鉱発見や農業の開拓の進展で発展した。現在の人口は約４３０万人。過去にオーストラリアの首都であったり、オリンピックが開催されたりしたこともあるという歴史ある都市である。治安も良く、世界で最も住みやすい都市にも選ばれている。都市の中心部では、１９世紀の歴史ある建造物と近代的な高層ビルのコントラストが絶妙であり、並木に縁どられた広い街路や庭園・公園も多く、美しいガーデンシティ（庭園都市）としても有名である。

２　メルボルン日本人学校について

〇設置者

　メルボルン日本人学校は、メルボルン商工会議所によって設立され、ビクトリア州政府による認可を受けた全日制の私立学校である。メルボルン日本人学校は、メルボルン商工会議所から権限が移譲された学校運営理事会によって管理運営されている。

〇ステータス

　メルボルン日本人学校はメルボルン周辺に在住する日本子女に対してオーストラリアの現地校としての枠組みの中で日本国憲法・教育基本法・学校教育法等の趣旨に則し、学習指導要領に準じた幼児・初等・中央教育を推進する在外教育施設である。

〇所在地

　メルボルン日本人学校は、ビクトリア州の州都メルボルンの中心から南東へ約 10 キロ離れたグレンアイラ市の閑静な住宅街に位置している。

〇メルボルン日本人学校の特色

①確かな学力

　母国語の基礎が完成する時期に日本語での教育は重要であると考え、学習指導要領に準じた教育を行っている。日本で使用されている教科書を使い、日本と同等以上の教育を行うことで帰国後の学力を保証している。

特徴　少人数によるきめ細やかな指導
　　日本より多い、週あたりの授業時数
　　学習規律・生活規律の指導
　　英検、漢検、標準学力検査、各種模試の実施

②英語教育

学習指導要領に準じたカリキュラムと、現地のオーストラリア人による EAL（第二言語としての英語）の２つの英語の活動。そして、新しく入学、編入した児童生徒に対し放課後の英語教育を行っている。

・EAL の授業

英会話ではなく、EAL の教授法に沿って４つの技能（reading, speaking, listening, writing）を習得するように、週３時間の活動が組まれている。現地のオーストラリア人が授業を行うことで、普段とは異なった観点から活動が行われるので、児童生徒はのびのびと活動できる。主な活動としては、レベルにあった reading のテキストを使った内容理解の学習、調べ学習、英語のプレゼンテーション、ポスター作りを行い、発表の場を設けている。これらの授業は能力別に２つのクラスに分け行っている。

・英語、外国語活動

現地日本人教員によって、小学３・４年は週１時間、５・６年生は週２時間、中学生は４・５時間（隔週で４時間）行われる。「Hi friends」や中学校の教科書を使い行うが、独自の教材や問題集、現地のテキストも使用している。基本的には EAL と同じように４つの技能を習得させる活動を行っている。独自の内容としては、エッセイ、英語新聞を読むこと、オーストラリアの紹介、討論、プレゼンテーション、現地の学力テストも受験している。また高校受験に向けて中学１年から授業でも準備を始め、中２・３年生は合同で放課後１時間の入試対策を行っている。

・ニューカマー、イングリッシュクラブ

週１回、放課後に新しく転入した児童生徒を対象としたニューカマー、それ以外の児童は、普段の授業では体験できない活動を行うイングリッシュクラブの補習授業を行っている。

③異学年交流

プレップ（幼稚園年少から年長）から中学３年生までの幅広い年齢の子供たちが一緒に学校生活を送る。運動会やメル校デー（オープンデー）などの各種行事では一人一人の果たす役割が大きく、活動を通して、自覚と責任感を高めている。また、委員会活動やクラブ活動は小

３以上が参加し、高学年が低学
年を優しくサポートしたり、上級生のきびきびと活動する姿を見たりして下級生が育つなど、他学年との信頼関係や相互関係を深めている。また、専科教科（音楽・図工・体育)、EAL では複式学年で授業を行い、学年学級にとらわれずに生活を送る中で、誰とでも関わり、励まし、高め合える環境を作っている。

３　教育実践

〇現地との交流学習

メルボルン日本人学校では、現地の学校と各学年、年２回の交流学習を行っている。相手先の学校は第二言語として日本語を学習しており、お互いの学校を訪問しそれぞれが日々学習している日本語や英語を生かしてコミュニケーションを図る。交流のプログラムはホストになる学校で考え、主にそれぞれの国の文化の紹介をしたり、一緒にアクティビティーを行ったりする。当日は、それぞれの学校の日課に即して進められるので、休み時間の過ごし方、リセッシュ（フルーツ、お菓子等の間食）など貴重な体験をすることもできる。この交流学習は日常学んでいる英語を試せる貴重な機会でありそれぞれの文化を体験することのできる場となるとともに、定期的に行っているため、本校児童と、交流先の児童の友好関係を広げる良い機会となっている。

【現地小学校との交流】

（平成２８年度　アッシュバートンプライマリースクールとの交流　５・６年）

・メルボルン日本人学校へ招待
　活動　体育（縄跳び、玉入れ）　音楽（国歌の紹介）
　　日本の遊び（福笑い・輪投げ）
・アッシュバートンプライマリースクールに訪問
　活動　ウクレレの演奏　体育（ドッチボール的運動）
　　算数（現地の教材の使用）　その他

（平成２７年度　コーフィールドプライマリースクールとの交流　プレップ、１・２年）

・メルボルン日本人学校へ招待
　活動　図工（一緒に絵を描こう）　音楽（楽器の演奏）
　　体育（跳び箱・縄跳び）
・コーフィールドプライマリースクールに訪問
　活動　体育（クリケット）　図工（アボリジニアート）
　　プレゼンテーション

〇言語活動

メルボルン日本人学校では学習指導要領に準拠した教育課程であるため、思考力・判断力・表現力を育てるための言語活動を重視した実践に取り組んできた。日常の活動では、問題解決的な学習などを通し、自力解決の力を育成し、要約、説明、紹介などの言語活動活動を多く取り入れた。特にペア学習、小集団での話し合いを行い「伝え合う力の育成」に取り組んだ。

〇情報教育（ICT の活用・情報活用能力の育成）

個人の研究テーマとして取り組んだ。メルボルン日本人学校では、環境的に日本の教材が手に入りにくい状況にある。また、現地在住の児童生徒もおり、日本語での指導が困難な状況もあった。そこで、ICT を活用することで、足りない教材を自ら作成し、児童生徒の興味関心を引きつけたり、拡大や書き込みをしたりすることでわかる授業を行った。

また、少人数の学級のため、伝える活動にも ICT を活用した。学習した内容をニュースや電子紙芝居にまとめることで、他学年など相手を意識した表現する活動にした。また、スカイプや掲示板などを使い、日本との交流学習を行った。日本とオーストラリアの文化や生活、観光などを紹介しあい相違点を考えた。その他、情報モラルの学習も行った。

日本との交流学習先

・北海道岩見沢市立メープル小学校
・岡山県津山市立中正小学校，愛知県金城学院大学
・佐賀県嬉野市立吉田小学校

〇現地理解教育

社会見学や校外学習等を通して現地理解教育を推進している。担任が中心となって計画を立て、施設とコンタクトをとる。日本とは違いオーストラリア特有の仕事のあり方や時間の流れ方があるため、事前の準備には現地職員とも連携し、入念な確認が必要であった。

また、現地の日本企業に協力していただいたり、現地の公共施設や企業、商店を学習に取り入れたりする場合には、日本との相違点を考えながら学習を進めることによって、国際人としての感覚を磨くことができた。

４年生以上が２泊３日の宿泊学習を毎年行い、自然や動物に触れ合ったり、アクティビティーの体験を行ったりしている。また、現地の宿泊施設に泊まることによって、現地の食事などの生活習慣に触れることもできた。

【社会見学・校外学習】

１・２年　ランドコックスパーク、メルボルン動物園、メルボルン水族館
３年　　スーパーマーケット見学（Coles)、メルボルン州立博物館
４年　　メルボルン消防署
５年　　TOYOTA 自動車工場　美術館見学
６年　　ビクトリア州議事堂

【遠足・宿泊学習等】

１～３年　ストロベリーピッキング、チェリーピッキング
４～６年　ビクトリア州内の宿泊施設でキャンプ（２泊３日）　美術館見学

〇日本文化を伝える。

　メルボルン日本人学校では、日本人会などと協力して、日本の文化を現地に伝える活動を行っている。９月に開かれる「メル校デー」では、日本式の学習の様子を公開したり、音楽や日本の遊び、運動、劇など日本の文化を現地の人たちに紹介したりしている。また、５月に開かれる「ジャパンフェスティバル」では「南中ソーラン」や「花笠音頭」などの踊りを披露し、数カ国の子供達が集まる「国際子どもフェスティバル」にも参加して、各国との交流も深めている。

４　オーストラリアに暮らして・・・

オーストラリアは多民族国家である。街を歩いていると肌や髪、目の色が違う様々な民族の人にすれ違うがどの人も明るく、親切な人ばかりである。オーストラリアには約９万人、メルボルンには約１万５千人の日本人が住んでおり、日本文化もいたるところに見ることができる。

〇衣服

様々なファッションが見られる。ビックリするのは裸足で歩いている人、上半身裸でいる人、冬になっても半袖短パンの人が多いこと。日本のユニクロや良品計画も出店しており、ロゴを見ることも多い。

学校は制服であるが、スウェットやパーカーなど学校オリジナルのユニフォームもある。

〇食生活

オーストラリアは言わずと知れた農業国であり、スーパーに入るとたくさんの種類の野菜や果物、牛肉、羊肉が並んでいる。また、乳製品や菓子類が豊富であり、買い物客はカートいっぱいの食料を買い込んでいく人が多い。多民族国家であるためレストランの種類も豊富で様々な国の料理を食べることができるので海外の生活の中で食べることに困ることはなかった。特にピザやアジア系の料理は手頃な値段で食べることができる。

また、メルボルンは「カフェ」で有名な街である。いたるところにカフェがあり、友人や家族でランチを楽しむ姿がよく見られる。休日には公園を訪れ、スポーツやウォーキング、ランニングを楽しんだりしている人が多い。

日本と違う習慣で驚いたことは、

- スーパーなどでは、ブドウなどの果物を勝手に味見しても良い。
- BYO という制度があり、許可されている店にはお酒を持ち込んでも良い
- 公園にバーベキュー台があり、無料で使用できる。
- ほとんどの店で、食べ残しも含めてテイクアウトが可能である。
- よくコーヒーを飲む、何かを食べている。

〇住宅

メルボルンでは、夏の日差しが強く、４０度近い気温となる日もある。住宅は煉瓦造りの平屋の住宅が多く見られた。日光が入らないように、厚手のカーテンを備え付けてあり、夏の高温でもある程度は耐えることができる。また、バスタブがない住宅も多い。敷地を広く取ってあり、バックヤード（裏庭）が

一般的にある。どの家にもバーベキューコンロ（ガスコンロ）があり、休日には家族でバーベキューを楽しんでいる。

〇仕事と休日

オーストラリアの人たちは、仕事を効率的に終わらせて定時に退勤する。ほとんど残業はしない。ホリデーや休日は家族と過ごし、旅行にもよく出かけている。夏になると、ビーチは賑わい、沖にはたくさんのヨットが帆を上げる。あるオーストラリアの方に聞いた話であるが、オーストラリアの方の「リッチ」は、「お金」「時間」「家族」に余裕がある人だそうだ。仕事とプライベートの区別がはっきりしていた。

５　おわりに

美しい自然と抜けるような青空が広がるメルボルン日本人学校に赴任し、各都道府県から赴任された先生方ならびにご家族、オーストラリアに住んでいる様々な方々に出会えたことに感謝したい。また、日本から遠く離れた土地で、明るく元気に頑張る児童、生徒たちの教育に関わることができたのは今後の人生で大きな財産となる。今後は、オーストラリアの人々の考え方や文化、伝統や歴史を日本の児童たちに伝えるとともに、日本の伝統や歴史・文化も児童とともに発信していきたい。今後、グローバル化はどんどん加速すると考えられる。国際社会を生き抜く児童を育成することが私の使命であると考える。